令和７年度　年度末評価（学校自己評価）

１　学校経営計画に関わる評価

評価　A：十分目標を達成することができた　　B：おおむね目標を達成することができた
　　C：多少目標を達成することができた　　D：ほとんど目標を達成することができなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○　と　課題・
守る	実際的な危機管理体制を構築し、様々な緊急時への対応力向上	・緊急時（非常災害訓練等）に自分で考え判断し、命を守る行動することができたと答える児童生徒80％教職員 100％	生徒アンケート 100％ 学校評価より 100％	A	○地震・火災に伴う避難行動ではシェイクアウト訓練やスモーク体験活動に取り組み、命の守り方について身につけることができた。 ○防災講話を真剣に聞く事ができた。 ・クラス内での事前学習の時間の確保 ○４月に捜索訓練を実施。６月と 10 月に不審者対応訓練を実施。 ・危機管理マニュアルについて職員で理解に差がある。
		・児童生徒の安全・安心を守っていると答える教職員 100％	学校評価より 100％	A	○自身の体調を言葉で伝えてくれる児童生徒が増えた。 ○外部講師も取り入れた指導の継続 ・情報共有の機能について周知徹底する。
	多様性を認め、自他を尊重し合い高い人権意識を持った児童生徒と教員	・児童生徒間でお互いを理解したりの良いところを認めたりする言動が増えたと答える教職員 ８０％ ・児童生徒の模範となり常に人権を守る言動を心がけている教員 100％	学校評価より 96.1％ 学校評価より 98％	A	○自立活動の授業や行事で自他の良さを見つけ伝え合うこと、活動の様子の録画を見合うこと、職員間で情報共有することを通して、児童生徒の言動を把握して成長する姿を捉えた。 ・「自他の良さに気付く」ことの目的や有効性とねらいたい具体的な姿の共有。 ○４月、９月、１月に人間関係づくり講座を実施。学年に応じた SST 講座を開催することができた。 ・先生たちの道徳や自立活動、学活・LHR の活動にどれだけ役立ったか確認が必要。
		・児童生徒の人間関係や学習上・生活上の困り感の把握に努め、早期に対応したと答える教職員 100％	学校評価より 96.1％	A	○いじめ防委員会を常会６回、臨時３回行い、記録を確実に残した。 ・基本方針を毎年見直し、改訂していく必要がある。
育む	**児童生徒が安心して学べる学校風土の醸成**	・児童生徒それぞれの良さや持ち味を生かした学びがあり、誰もが活躍できる機会があると答える児童生徒及び教職員 80％	学校評価より 98％	A	○学部行事（翔杉祭、地域交流等）で、児童生徒が役割をもって活躍する場を設けることができた。また児童生徒が自分の役割を果たそうとする場面がたくさん見られ、自他を認め合う姿が多く見られた。

	ＯＪＴによる学校力の向上を高める	・キャリアステージごとに求められ資質能力が向上したと答える教職員 80%	学校評価より 88.3%	A	○人財サポート面談（毎学期１回）は、OJT をテーマにミドルリーダーとしての役割を話し合う機会となった。 ・人材育成の意識向上。
	ＩＣＴ機器等を効果的に活用した授業実践を展開	・ICT 機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の味関心や理解が深まったと評価する教員 80%	学校評価 90.2%	A	○デジタル教科書および電子黒板の使用により授業を効果的に実施できたという意見が多く見られた。 ○様々な機器やツールが様々な方法で活用されていて、実践として積み重ねられている。 ・障害特性に応じた ICT 機器の効果的な活用方法についての研修の充実。 ・各々の実践を共有できる機会を設定するなど、みんなで参考にできる方法を検討する。
		・病院や原籍校及び家庭と連携が深まったと答える教職員 80%	学校評価 96.1%	A	○ICT 機器を活用し、児童生徒の心身の状態に即した支援を行うことで学習への興味、原籍校や高等学校への関心や理解が深まった。また病院側が学校行事や授業内容を知る機会となった。 ○原籍校における授業参観やオンライン面談等の回数が増加した。 ・病院との連携では、更なる充実が必要である。 ・原籍校や家庭への理解促進。 ・さらに活用しやすい環境設定を進めていく。
	病弱教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な実践	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践することができた教職員 100%	学校評価 96.1% A＜B	B	○ 授業実施と、授業参観を通じた授業改善は継続されている。 ・一人一授業研の深まりを望む意見もある。充実と、業務量とのバランスのとり方を一考していく。
		・自立活動の視点に立った支援を授業にとり入れた教職員 80%	学校評価 96%	A	○天特が従来大切にしてきた「個別最適な学び」の前提となる自立活動の再意識化につながった。
		・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教職員 100%	学校評価より 96.1%	A	○事例検討会やケース会等を通して、児童生徒のニーズに応じた適切な指導目標や指導内容、支援方法を検討し、実践することができた。 ○整理図や Co-MaMe の学習会、事例検討会やケース会の実施、各学部の実態に即した支援目標の共有等を通して個別の支援目標達成に向けた支援指導を行った。 ・生成 AI の導入、統一様式への移行を図り、天特としての様式の整理・見直しを進める。

つなげる	みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実	・みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員100％	学校評価より AB評価96.1％	A	○各学部で計画的に交流活動や実習、外部人材活用の授業を実施し、地域の人と触れ合い、知識や経験を広げたり深めたりすることができた。 ○作品展示やボランティア活動など地域とつながる取組については、関係する教科や部署、みゅうの丘協議会・作業部会を通じて進め、理解啓発を図ったり、イベントの運営に協力したりすることができた。 ・みゅうの丘イベントの開催場所等について検討課題として残っている。みゅうの丘協議会で確認・検討する必要がある。 （令和８年度の当番は天特）
		・学校の教育活動を知ることができたと答える保護者・外部機関等関係者の評価80％	保護者評価より AB88.8％ 関係者評価より AB98％	A	○学校見学や学校公開、進路だより等で学校の取組について周知できた。 ○計画的に更新ができ、学校の様子を伝える手段としてホームページが機能していた。 ・見やすさ向上のためのカテゴリの整理やナビゲーションの改善。
	個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立	・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし連携できた教職員１００％ ・児童生徒がなりたい自分をイメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員100％	学校評価より 96.1％ 90.2　％		○個別の教育支援計画を活用し、支援会議や引継ぎ、助言を行うことができた。また保護者や原籍校との情報共有で連携を図ることができた。 ○年度初めにキャリア教育の全体計画やキャリアパスポートについての説明を行った。キャリアパスポートの活用については温度差があるが、教育活動全体を通してキャリア教育の実践や進路指導を積み重ねている。 ・デジタルプラットフォーム（個別の教育支援計画）やキャリアパスポートを活用した支援や連携の工夫。
チーム	「チーム天特」による全員参加の業務改善	・予算立案・執行や施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員100％ ・担当業務や行事の見直しを行い、業務改善できた教職員80％	学校評価より 94.1％ 98％	A	○事務室は校務DX（チャット機能等）の推進を積極的に行い、教職員との密なやりとりをし、相互に協働連携することができた。 ○学部主事を中心に部内職員の業務の把握、分担の見直し改善を行い、負担が集中しないようにできた。
		・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員100％	学校評価より 92.2％	A	○会議回数等の見直し、効率的な運営については改善が進んでいる。 ・会議終了時刻の厳守、資料のデジタル化（紙面配布の精選）などは、今後も意識し改善する。